



「情報通信の一翼を担う企業として協力会社からの情報漏洩防止にも気を配らねばなりません。『パソコンの入退出管理』にあたるシステムを構築しました」

協和エクシオ 日下部孝章氏(写真左) 磯貝雄治氏(右)

通信設備建設の大手、協和エクシオ 安全品質管理本部の日下部孝章氏(写真左)と磯貝雄治氏(写真右)に、詳しく伺いました。

協和エクシオの概要

～通信設備建設の大手企業

— 協和エクシオの概要を教えてください。

協和エクシオは、昭和29年に創立され以来半世紀以上にわたり情報通信ネットワーク構築のリーディングカンパニーとして、確かな技術と誠実な経営で、日本の通信設備建設に貢献してきました。

情報通信分野においては、ブロードバンドサービスの急速な拡大やネットワークのIP化に伴い固定通信と移動通信、通信と放送の融合・連携が進展するものと思われますが、これまで培ってきたブロードバンドアクセス技術、土木技術、ネットワーク技術、電気設備技術、モバイル技術を駆使して、基地局から端末機器に至るあらゆる通信設備について、設計から施工、保守までの一元的なサービスを提供します。

固定電話市場ではアクセス網の光ファイバ化が進展しつつありますが、弊社では2002年に「光NO.1企業」を標榜し光ファイバの

技術力・施工能力の充実・拡大のため技術者の育成・強化に積極的に取り組んできました。その取組みの成果の一つとして2005年、2007年の技能五輪国際大会の情報ネットワーク施工部門において2連覇を達成し、弊社の光の技術力が国際的に評価されました。

協和エクシオは ソリトン製品をどう活用しているか

— 協和エクシオは、ソリトン製品をどう活用していますか。

協和エクシオでは、社員3500人および協力会社2000人のセキュリティ管理のために、以下のソリトン製品を導入しています^(※)。

- SmartOn (ログオン管理、入退室管理)
- e-Care、Net'Attest SecurityFilter (資産管理、検疫ネットワーク)^(※)



SmartOnはログオン管理、入退室管理を行うために導入しました。協和エクシオではSmartOnで社員証を管理しています。協力会社の社員は同様の「パートナー証」を作っています。協和エクシオのパソコンを使う場合は、その社員証（パートナー証）を読み取り機にかざしてログオンします。また、技術センターなど主要拠点においては、その社員証（パートナー証）で入退室管理を行っています。

また、e-CareとNet'Attest SecurityFilterを導入してセキュリティ状況の現状把握と、不正パソコンのネットワーク接続禁止、つまり「検疫」を行っています。

※ SmartOnは、NTTコミュニケーションズから購入しました。

※ SecurityFilterは350台以上導入し、7000クライアント以上に対して検疫と資産管理を行う予定です。

事故防止を期して、検疫システムを構築

— 協和エクシオの検疫システムの概要をお聞かせください。

協和エクシオでは、検疫を「パソコンの入退室管理」と位置づけています。協和エクシオのネットワークにログオン（入室）するには、以下の検疫条件を満たしている必要があります。

- 検疫条件1：SmartOn（=社員証、パートナー証）を使ってログオンしている。
- 検疫条件2：Windows Updateを正しく行っている。
- 検疫条件3：ウイルス対策ソフトウェアの定義ファイルが最新の状態に更新されている。
- 検疫条件4：Winnyなどファイル交換ソフトがインストールされていない。
- 検疫条件5：e-Careがインストールされている。

通信設備建設という業態ならではのセキュリティ対策上の困難

— 通信設備建設という業態ならではのセキュリティ対策上の困難をお聞かせください。

通信設備建設という業態ならではのセキュリティ対策上の困難としては、「協力会社のセキュリティも管理しなければならないこと」および「現場が日本全国に散在していること」の二点がありうると考えています。

「協力会社のセキュリティも管理しなければならない」理由は、通信設備建設という仕事において、協和エクシオが元請けの立場であるためです。施工現場では、協力会社を管理、監督しなければなりません。このような場合、協和エクシオは、協力会社のセキュリティ管理にも責任を負うことになります。しかし、協力会社とはいえ、別の会社のセキュリティをも管理していくのは難しいことです。

「現場が日本全国に散在している」理由は、通信設備の施工現場が全国各地に散在しているためです。本社から遠く離れた場所にあるパソコンのセキュリティを確保するのは難しいことです。

今後のセキュリティ強化の予定

— SmartOnによるログオン管理やe-Care、Net'Attest SecurityFilterによる検疫以外にセキュリティ対策の強化は行いましたか。

SmartOn、e-Care、Net'Attest SecurityFilterの他に、指紋認証付きUSBの使用を導入しました。

将来的なセキュリティ施策としては、「各種資料の暗号化」、「メールの暗号化」、「メールの電子証明」、「シンクライアント化」などを検討しています。セキュリティは今後も継続的に強化します。

セキュリティシステム構築を、実際にやってみて初めてわかったこと

— 今回、セキュリティシステムを構築していくにあたり、「やってみて初めて分かったこと」を教えてください。今後検疫システムの構築を検討するお客様のご参考にさせていただければと存じます。

これから検疫システムを構築しようとする会社には、「資産管理（現状把握）が、地味なようで意外に効果的である」とお伝えします。



「現状把握は、地味なようで牽制力が強いと分かりました」

かつて我々は、資産管理（現状把握）を重要視していませんでした。各社員には、Excelの調査票を送って、そこに記入してもらうだけで、十分だと考えていました。その調査票を見る限り、協和エクシオのセキュリティに問題はありませんでした。しかし、その後、e-Careでセキュリティの実態を調査したところ、「セキュリティ調査票での申告に、さらにシステムによる確認を加える方が、より高度なセキュリティを担保できる」と分かりました。

ソリトンのセキュリティ製品への評価

— ソリトンの製品群への評価をお聞かせください。

第一に、製品体系に一貫性があり、製品の包括性、拡張性およびワンストップ性に優れていることが挙げられます。これは製品開発を自社で行う「メーカー」であるからだと思います。第二に、サポート問い合わせへの回答が迅速なことが挙げられます。これも自社で製品を開発しているからだと推測します。第三に、営業マンの顧客に対する意識が高いことが挙げられます。営業マンが常に迅速に対応し、先回りした提案も多く行ったりする点が、良いと思います。

今後の期待

— 今後の期待をお聞かせください。

協和エクシオでは、今後もセキュリティを継続的に強化します。ソリトンには、今後とも優れた技術と迅速な対応を継続して提供していただくことで、協和エクシオのセキュリティの取り組みを支援していただけることを期待します。今後とも宜しくお願ひいたします。

— お忙しい中、有り難うございました。

「セキュリティのありのままの現実」を見ることの重要性

— 「セキュリティ調査票での申告に、さらにシステムによる確認を加える方が、より高度なセキュリティを担保できる」とは具体的には?

まず、「調査票の申告には主觀が混入するおそれがあるが、システムを使えば客觀性を担保できる」ということです。個人による紙ベースの報告内容には、原理的に報告者本人の主觀が混じらざるを得ません。そのため、現実の状態を十分に反映できなくなります。e-Care導入後は、状況の客觀的把握が可能になりました。

次に、「調査票作成時の高度セキュリティレベルを、システムにより、維持することができる」ということです。社員がセキュリティ調査票への記入を求められた場合、その時は緊張感をもってセキュリティレベルを上げるでしょう。ウイルス対策ソフトウェアを最新にし、WindowsUpdateも最新にするでしょう。調査票を書いた時点では、セキュリティレベルは十分に確保できているといえます。しかし、もしもセキュリティレベルを各人の善意により担保しているならば、セキュリティレベルの維持は困難です。e-Care導入後は、セキュリティの現状を客觀的に把握し、状況を現場にフィードバックすることで、セキュリティレベルを維持することが可能になりました。

Soliton®

www.soliton.co.jp

株式会社 ソリトンシステムズ

〒160-0022 東京都新宿区新宿2-4-3

TEL 03-5360-3811 FAX 03-3356-6354 netsales@soliton.co.jp

大阪営業所 06-6821-6777 福岡営業所 092-263-0400 名古屋営業所 052-963-9700
東北営業所 022-716-0766 札幌営業所 011-242-6111

このカタログは2008年12月現在のものです。仕様・デザインは予告なく変更することがあります。

SSS-0812A